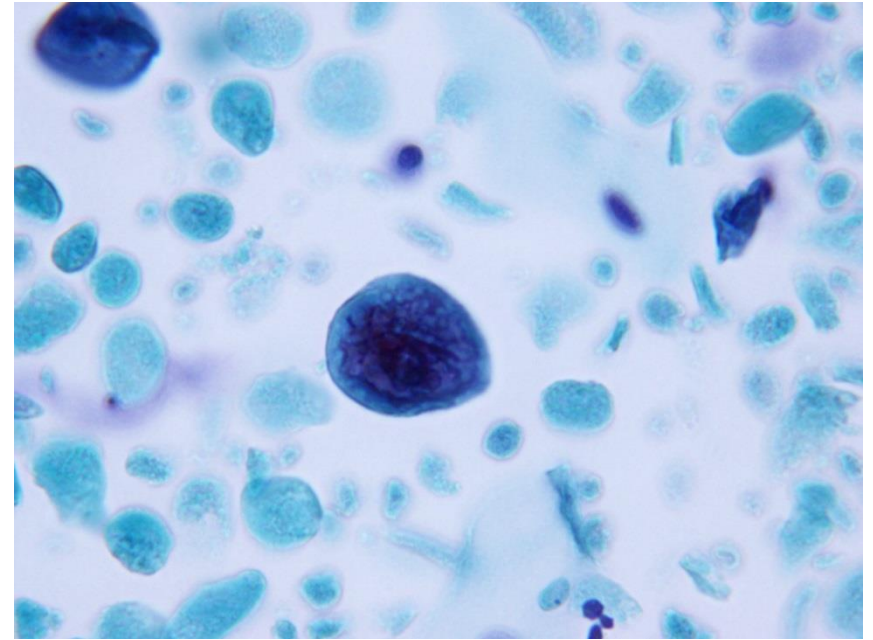
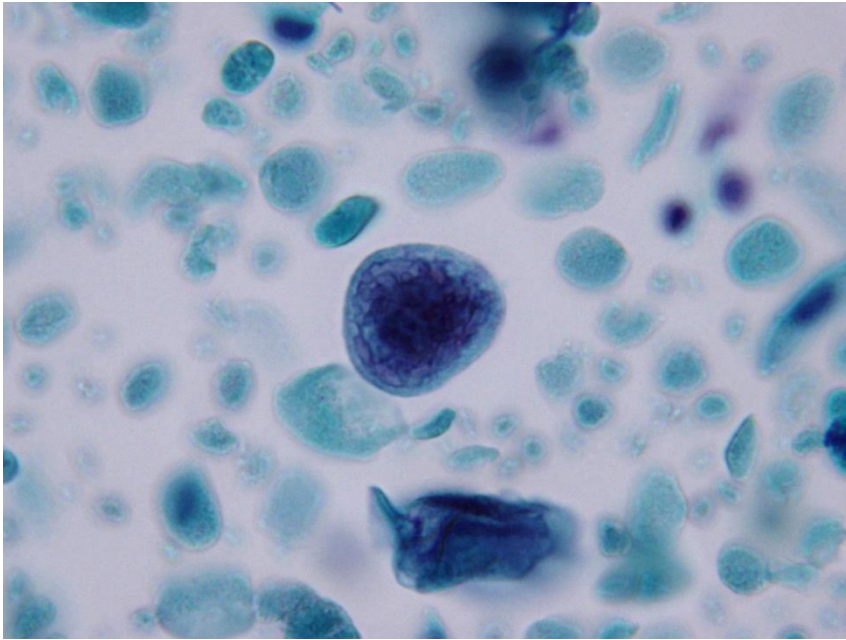


県立北部病院 症例4（ご意見後の回答）

（ご意見のまとめ）

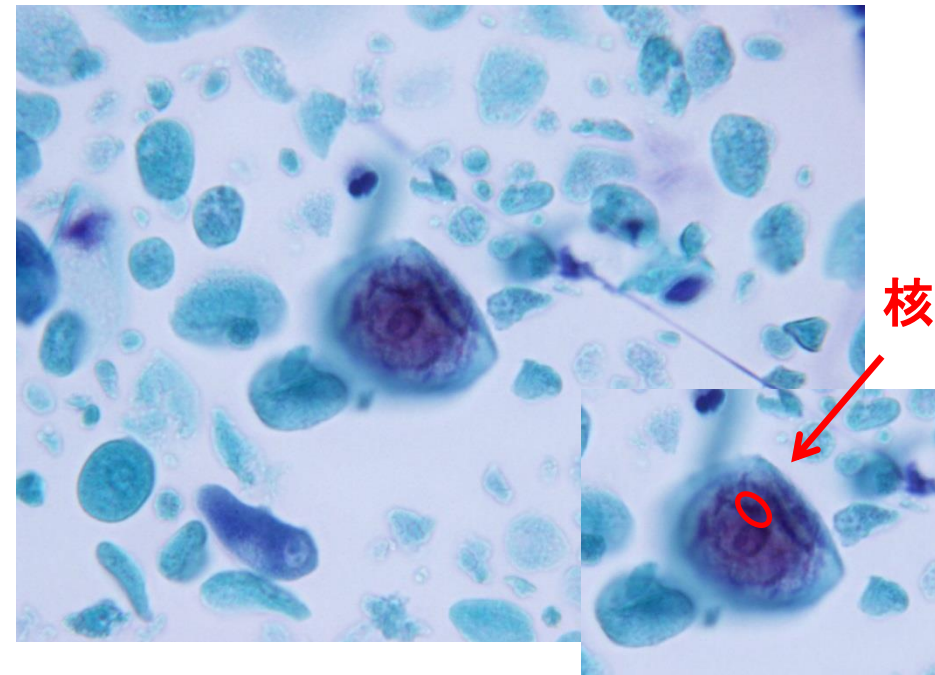
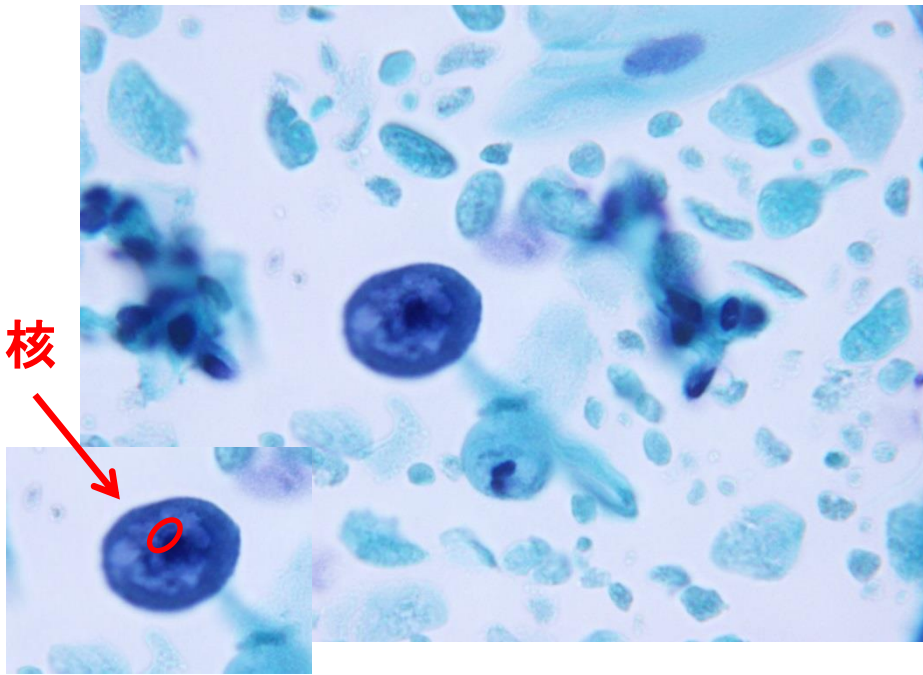
- 萎縮、炎症による変化。→NILM
- 裸核細胞が気になるのでフォローが望ましい。→ASC-US
- 臨床的に腫瘍を疑うが、変性が強く診断困難な場合
→不適正（生検による再検を依頼）
- 壊死物質と裸核細胞、異型細胞が見られる。→SCC疑い

* 裸核細胞の由来が問題となる。



(ご意見前の判定)

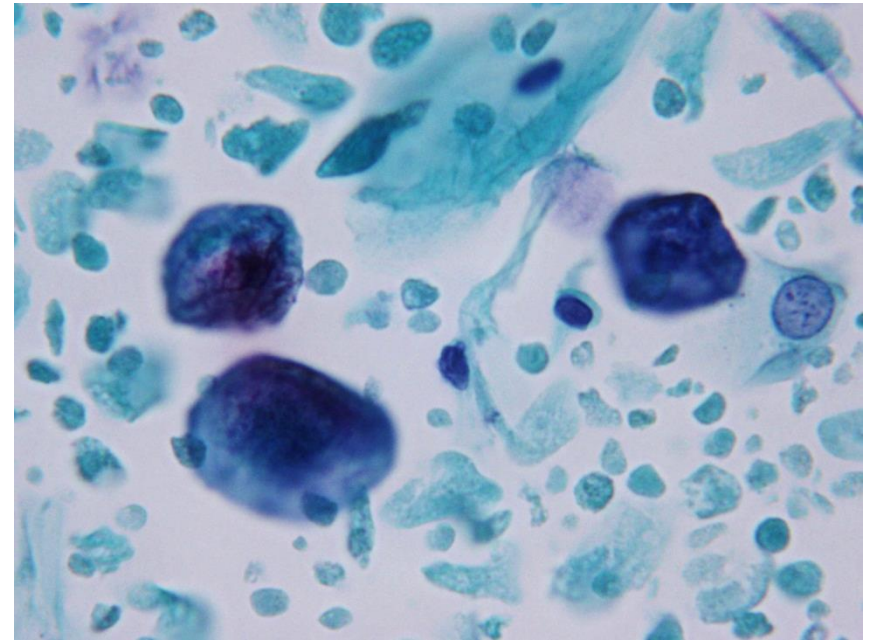
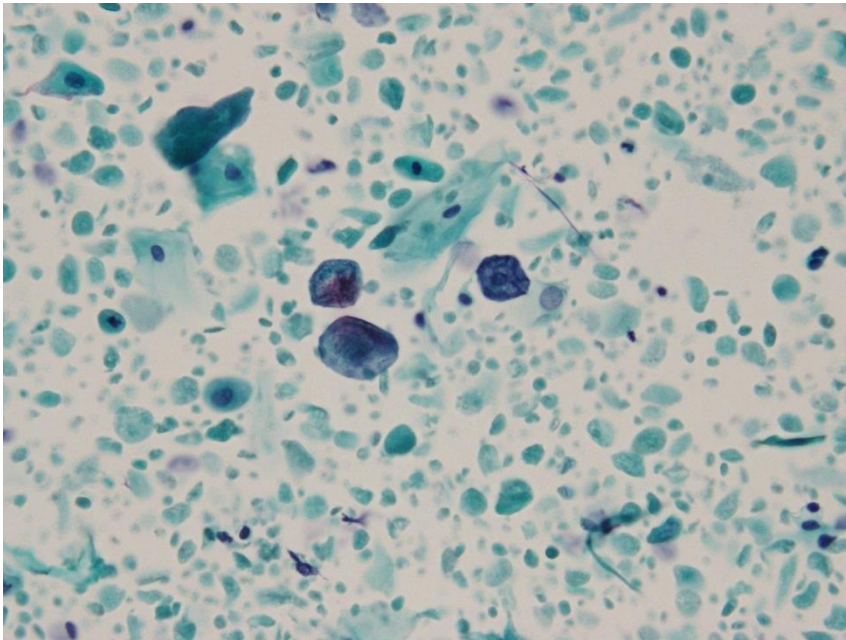
- 壊死物質や裸核細胞、オレンジG好性細胞が見られた。
裸核細胞の存在により異形成を疑うが、変性により詳細不明瞭である。 → 当院での判定: ASC-H



* 写真では分かりにくいですが、深度を変えると小型の核を認めます。

(皆様のご意見を受けて)

- 再度観察し直したところ、変性細胞に核および核周囲 halo が認められました。halo 状の部分がヘマトキシリンに染まり、変性を伴って裸核細胞の様に見えていたと考えられます。



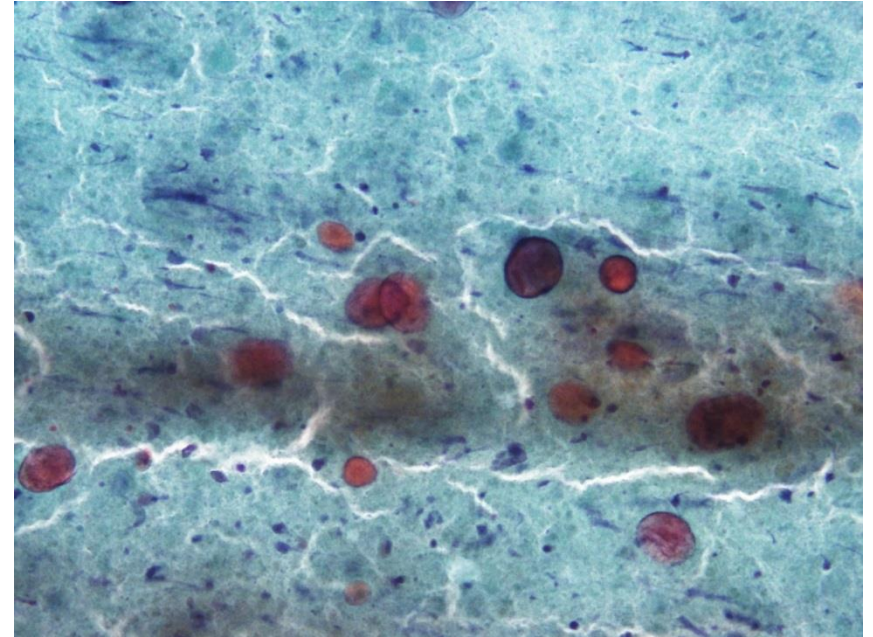
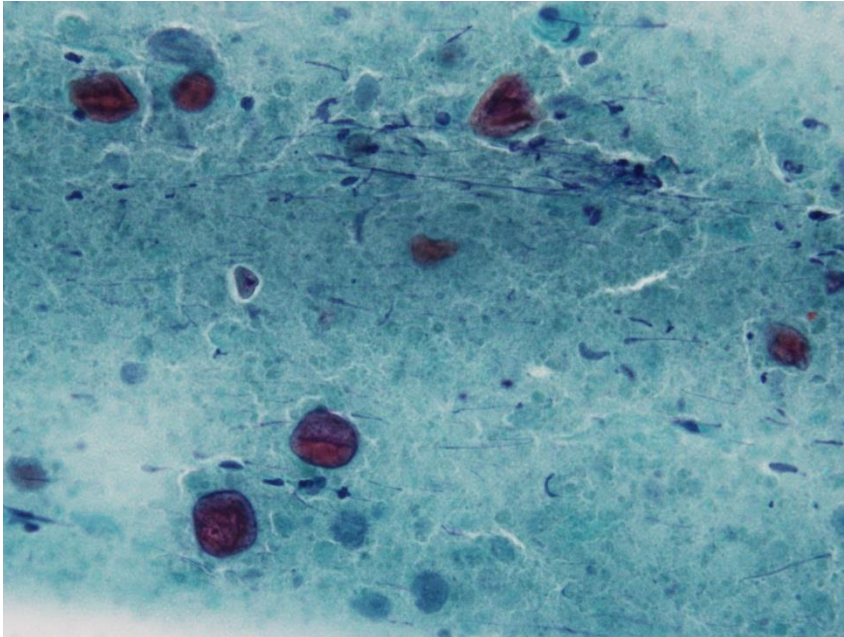
(ご意見後の判定)

- 萎縮を伴い壊死物を認めるが、明らかな核異型は認められない。変性により詳細不明瞭であるが、核周囲に halo 状変化を認める。 → 判定: ASC-US

(反省点)

- ヘマトキシリン濃染細胞を裸核細胞と捉えてしまった。
ASC-Hは過剰診断であった。

(従来法) 同一患者の従来法の細胞像です。同様の変性細胞が認められました。



【最後に】

今回沢山のご意見を頂き、大変参考になりました。
結果をまとめて下さった、定例会担当の方々にも
感謝致します。ありがとうございました。